

和歌山県教育委員会

資料提供

令和7年9月10日

和歌山県立博物館 特別展 「紀伊徳川家の威風」の開催について

紀伊徳川家は江戸時代の和歌山城主です。徳川御三家の一つとして江戸幕府を支え、8代将軍徳川吉宗、14代将軍徳川家茂を輩出しました。元和5年（1619）徳川頼宣が紀伊藩の初代藩主になって以来、紀伊国や伊勢国南部を中心に55万5000石の所領を有する大名として政治をつかさどりました。

この特別展では、紀伊徳川家の歴代当主、藩祖頼宣の父親の徳川家康や母親の養珠院、付家老を務めた田辺領主の安藤家の歴史を物語る資料、絶景の宝庫である日本遺産「和歌の浦」に関わる資料などを展示し、現在の和歌山県の基礎を築いた紀伊徳川家の歴史と文化を紹介します。

前期（10月11日～11月3日）、後期（11月5日～11月24日）で一部の資料を展示替えします。

主な展示資料

重要文化財	太刀 銘来国俊	徳川頼宣所用	一口
重要文化財	南蛮胴具足	徳川家康所用	一領
重要文化財	太刀 銘左近将監景依	正応二年十一月日	一口
重要文化財	太刀 銘光忠		一口
重要文化財	太刀 銘伯耆大原真守		一口

- 1 展覧会名 特別展「紀伊徳川家の威風」
- 2 会場 和歌山県立博物館（和歌山市吹上1-4-14）
- 3 会期 令和7年10月11日（土）～11月24日（月・振休）
- 4 開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は閉館の30分前まで）
- 5 休館日 月曜日、10月14日（火）、11月4日（火）
ただし10月13日（月・祝）、11月3日（月・祝）、11月24日（月・振休）は開館
- 6 入館料 一般910円（750円）、大学生570円（450円）※（ ）内は20名以上の団体料金
高校生以下、65歳以上、障害者手帳の交付を受けている方は無料
- 7 展示資料 130件（重要文化財5件、和歌山県指定文化財20件）
- 8 展示構成 I 紀伊徳川家のはじまり
II 偉大なる父母
III 紀伊徳川家のみやび
IV 田辺領主の安藤家
V 聖地和歌の浦

※イベント等はチラシをご覧ください。

担当課：県立博物館 学芸課

担当者：佐藤 頸 電話：073-436-8670（代表）

メール：admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp

展示のみどころ

I 紀伊徳川家のはじまり

～なぜ御三家が和歌山に？～

紀伊徳川家の初代は、徳川頼宣です。これまで徳川家康の跡を継いだ江戸幕府2代将軍の秀忠が、家康に寵愛された弟の頼宣を和歌山の地へ追いやったという説が有力でした。今回の特別展では、当時の幕府の軍事的な戦略を踏まえて、御三家が和歌山に置かれた理由を考えます。



重要文化財 南蛮胴具足 紀州東照宮蔵

II 偉大なる父母

～徳川頼宣の父母と紀伊徳川家との縁～

徳川頼宣の父は徳川家康、母はお万の方（養珠院）です。家康は江戸幕府を開いた武将として有名ですが、母もまた個性的な人物で、当時女人禁制であった七面山（山梨県）に初めて登った女性として知られています。この章では、家康を祀る紀州東照宮とお万の方の菩提寺である本遠寺（山梨県南巨摩郡身延町）所蔵の資料から、2人と紀伊徳川家の繋がりを紹介します。



予安鬼子母神立像 本遠寺蔵

III 紀伊徳川家のみやび

～歴代藩主の作品やコレクションの数々～

紀伊徳川家歴代の当主は武士ですが、武芸のみならず、教養人として学問に励み、書画を揮毫し、漢詩や和歌を詠み、茶道や陶芸にも精通していました。この章では、彼らの作品や収集したコレクションなどを展示し、江戸時代の大名の華麗な生活や教養について紹介します。



青磁葵紋火鉢 養翠園蔵

IV 田辺領主の安藤家

～紀伊藩ナンバー2ゆかりの品々～

紀伊徳川家と比べるとあまり知られていませんが、田辺城の城主で、紀伊藩で藩主やその一族に次ぐ地位を誇ったのが安藤家です。初代当主の安藤直次は、徳川頼宣を傳役（今で言う教育係）として支え、明治時代には藤巖神社（田辺市）に祀られています。



陣羽織 安藤直次所用 鹿島神社蔵

V 聖地和歌の浦

～今年は南龍神社創建150年～

徳川頼宣が父母を祀った和歌の浦は、風光明媚な名所として知られています。明治維新で紀伊徳川家の支配は終焉しますが、紀伊徳川家を慕う旧藩士たちが奔走して、今から150年前の明治8年（1875）この地に頼宣を祀る南龍神社が創建されました。



八幡神立像 紀州東照宮蔵